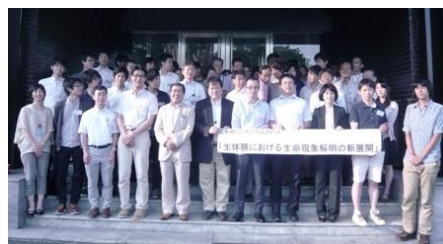


2013 生有研シンポジウム「生体膜における生命現象解明の新展開」実施

2013年7月17日(水) 生有研(所長:末松誠慶(應義塾大医学部長) 主催のシンポジウム「生体膜における生命現象解明の新展開」を開催しました。



生有研では、「生体膜上のタンパク質-糖脂質-天然有機化合物等の複合体の構造機能相関の解明」が、研究の大きな奔流の一つとなってきました。今回、この分野の気鋭の若手研究者4名と生有研研究員1名を講師とするシンポジウムを開催しました。また、将来の同分野での研究者育成を目的として、事前申込みにより、大阪大、京都大、立命館大、神戸大など近隣の大学研究室から計24名の学部生、大学院生、ポスドクを受入れ、インフォーマルな雰囲気での活発な議論、研究交流を図りました。



生有研研究員・野村薫による「GPI-アンカー型タンパク質と脂質二重膜との相互作用解析」を口切に、立命館大・石水毅准教授「植物膜結合型酵素:ペクチン合成酵素の構造研究」、北陸先端科学技術大学院大・濱田勉准教授「人工膜からなる細胞用粒子の分裂、出芽等現象の物理化学的解析」、大阪大・花島慎弥講師「糖脂質構成糖の合成と糖鎖結合タンパク質の相互作用解析」、横浜国立大・川村出准教授「細胞膜中で機能する視物質ロドプシンの構造解析」の5つの講演がありました。どの講演でも、学生から講師に「とてもいい質問です」と言わせる鋭い質問や指摘が数多くあり、和気あいあいとはいえ、緊張感のあるディスカッションが活発に行われました。主催者側で、質問の内容やディスカッションの質などを採点し、



高い評価を受けた5名に、Best Discussion 賞として賞状と記念品を贈りました。今後の勉学と研究の励みとなることを期待しています。なお、受賞者は、立命館大生命科学部石水研・上原洋平(学部4)、大阪大院理学研究科深瀬研・相羽俊彦(M2)、京都大化学研究所二木研・奥彰彦(D1)、京都大院薬学研究科松崎研・河野健一(D3)、大阪大院理学研究科深瀬研・加治木泰範(D3)の5名でした。

講演後は、生有研の見学、懇親会と続き、講師、学生、生有研所員との熱い議論が夜遅くまで交わされ、充実した密度の濃い一日となりました。今後もこういったシンポジウムを企画し、新進気鋭の研究者の方々とのネットワークを充実させていくと同時に、生有研の研究も積極的に発信して行きます。

